

聖書箇所：マタイの福音書24章37~44節
「いつの日なのか、分からなくても」

【1】目を覚ましていなさい

① ノアの時代の人々

- ・終末とさばきの日：「ノアの日と同じように実現する」
- ・「ノアの日」＝「ノアの大洪水」(創世記 6:5-9:7)
 - 一人々：普段と同じように過ごしていた
 - 一ノア：神のことばをまっすぐに受け入れた。
- ・神のさばきの日にノアとその家族は救われた(ハブル 11:7)

② 二人の男、二人の女

- ・二人のうち一人は「取られ」もう一人は「残される」の意味
 - 一神の権威のもとで起こること

【2】想起し、将来に備える

- ▶ 「津波てんでんこ」：「津波が来たら、いち早く各自てんでんばらばらに高台に逃げろ」
- ・過去を想起し、来るべき終末とさばきの日に備え、現在を生きる
- ・「その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。…ただ父だけが知っておられます」(マタイ 24:36)→人は「その日」を特定できない。

▷人は終末とさばきの日がいづなのかを知りたいと求めます。しかしイエスはいつなのか分からず思いがけない時に来るのが「その日」だと警告されました。

【3】いつの日なのか、分からなくても

- ・今日私たちがなすべきこと
 - 一「目を覚ましていなさい」(24:42)
 - 一「用心していなさい」(24:44)
- ・「その日」が来るまで、自分に委ねられたことに誠実に向き合うこと
 - 用心する：「忠実な賢いしもべ」として(マタイ 24:25)

▷私たちが今日できることは未来を予測することではありません。「その日」がいつ来ても良いように、目を覚まし、用心することです。「いつの日なのか、分からなくても」なすべきことを今日、行うことなのです。

